

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「 創立 60 周年を迎えて 」

院長 三船 和史

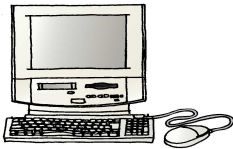
昭和28年7月1日に開設された三船病院(当院)は、今年、創立60周年を迎えることができました。60年前の開設時、香川県内の精神科医療機関はわずか3カ所しかありませんでした。この60年の精神科医療を取り巻く時代の変遷を、前半30年と後半30年におおまかに分けてみると、前半の30年までは精神障害者の居場所は自宅以外には病院(入院)しかなく、入院患者数は増加の一途をたどりました。一方、後半の30年では、デイケアや通所施設といった患者さんの日中活動の場や、地域内居住施設、地域内サポートシステムなどの充実に伴い、入院患者数は減少傾向となっています。今から約30年前の私は、国が精神障害者の社会復帰施設や福祉に真剣に取り組まないことに腹立たしさを覚えていました。しかし、近年30年の変化は著しく、当時と比較すると隔世の感があります。

ここで、現在まで実施した60周年記念事業として、大きく2つ、精神科急性期治療病棟の設立と電子カルテの導入を挙げたいと思います。精神科急性期治療病棟については(もちろん、当院では開設以来ずっと急性期医療を行ってききましたが)、今回、1つの病棟を急性期医療に特化させることによって、急性期医療がより専門化し、急性期医療に対する職員の意識が大きく変革したと感じています。今後も急性期医療には最大の力を注いでいきたいと思っています。また、電子カルテの導入についてですが、平成25年3月に、従来の紙カルテから電子カルテに完全移行しました。これにより、医師の記録とともにすべてのコ・メディカルの記録をいつでもどこでも閲覧することができるようになりました。実際に電子カルテを導入してみて、多職種によるチーム医療が物理的にも容易になるなど、そのメリットは計り知れないものがあると実感しています。これまで私は、精神科における電子カルテ化はデメリットの方が多く、使い物にならないのではないかという考えでしたが、他院での導入実績をみていてこの数年間でその考えは大きく変化しました。

我が国の施策としては、最近では特に障害者の就労支援が重視されています。5年後の雇用促進法改定では、精神障害者の雇用が義務化されます。三愛会としては、平成20年に「障害者就業・生活支援センターくばら」を立ち上げました。このような支援センターは全国に300カ所、香川県でも4カ所あります。しかし、精神科の病院が母体になって運営しているところは全国的にも極めて少なく、香川県では「くばら」だけであり、このことから、当院が精神障害者の就労援助に特に力を入れていることがお分かりいただけるかと思えます。そして、平成24年に就労継続支援B型事業所をスタートさせました。これら2つの就労系の事業に加えて、新たに就労移行支援事業所を立ち上げることにし、この3つの事業所が同じ就労系であるということで、同じ1つの建物の中に集めることにしました。その建物の名称が「ワークサポートセンター三愛」であり、介護老人保健施設福寿荘の東側に2階建ての建物を作り、来年4月から運営を開始する予定です。これも60周年記念事業の1つになります。就労系が1カ所に集まることによって、更なる質の改善が期待されます。

最後に、今後の精神科医療の展望に関して触れておきたいと思います。平成26年4月に精神保健福祉法が改正されると、医療保護入院の運用がより厳しくなると予想しています。従来から言われているように、精神科病院に入院している患者さんは、短期入院の急性期患者と長期入院の重症患者に二分化され、その中間に位置する患者さんの入院は、今後厳しく抑制されることになると思われます。当院では、すでに大規模なダウンサイジングを実現しており、現在ではこのような中間に位置する入院患者さんは非常に少なくなっています。なお、現在稼働病床数390床ですが、実際に入院している患者数は340名程度となっています。今後も、さらなるダウンサイジングを計画しており、これからのビジョンとしては、急性期医療と重症患者の医療にますます専念していくことを考えています。





「電子カルテ導入に伴う変化」

事務部情報課 田中 賢哉

「情報科学の急速な進歩は医療行為の構造に変化をもたらすだろう。」

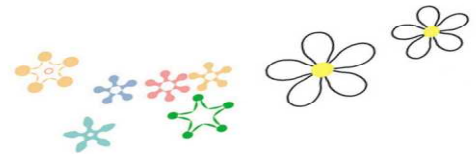
1970年に WB シュワルツが唱えた近未来の医療のように、当院も電子カルテシステムを2013年3月に導入し、ドラスティックに変化し始めました。

これまで手作業で毎日分別搬送していた紙カルテはすっかり影を潜め、今では院内各箇所に設置されたパソコンからカルテが閲覧できるようになりました。記入者により字の異なるエラー抑止効果も期待され、検査システムをはじめ調剤システム、栄養管理システムなどの周辺システムの連携をも可能にしました。

既に導入済みであったオーダーリングシステムは、あくまでも医師の考え(Plan)を指示(Do)するツールに過ぎず、効果の検証(Check)や改善(Act)に役立つ機能は持ち合わせていませんでした。そのため、実施された指示の検証や改善の記録は、紙カルテ・帳票に残っているか、それぞれの医師の頭の中に蓄積されるため、Know-how の共有に多大な労力を要していました。

しかし、電子カルテシステムは(Plan)(Do)(Check)(Act)の全ての行程を網羅する総合マネジメントシステムであり、検査の結果、診療の経過、治療効果、次へのステップ、医師だけでなく看護師やソーシャルワーカー、管理栄養士など他職種の思考(Know-how)が、電子的に記録されるため情報共有が容易となります。他職種ひとりひとりの Know-how が、明示的に病院全体の know-how になり、それらが蓄積されて最善の医療構築に役立てられます。

昨年の初夏に電子カルテ導入プロジェクトがキックオフしてから早1年、リリースからまもなく半年が経過しようとしています。リリース当初予想された操作方法の混乱もここまでの時間の経過とともに、徐々に改善してきています。まだまだ発展途上ではあるもののこれからのデータ蓄積に伴い、ポジティブな相乗効果も今後ますます増加していくことでしょう。



三船病院医師からのメッセージ・・・



「新型うつ病」

三船病院常勤医師 森 秀徳

最近ではテレビやインターネットで、『新型うつ病』もしくは『現代型うつ病』という言葉を目や耳にする機会が増えていきます。日本うつ病学会が、「職場で排他的に扱わないでほしい」と訴えたことがニュースになったのは記憶に新しいところです。新型うつ病は主に以下のような特徴があります。

- ・ 比較的若年者に多い
- ・ 症状は不全的である
- ・ 趣味はできる
- ・ 抗うつ剤を嫌がらない
- ・ 早期に自主的に受診することが多い
- ・ 他罰的で帰属意識が低く、他者への配慮もない
- ・ 復職を回避／延長しがたがる

これらの特徴は、完全発症して受診し、他者への配慮があり、趣味も楽しめず、責任感や罪悪感を感じる、いわゆる古典的うつ病の特徴とは全く正反対に見えます。しかし、実際にそういう患者様が全国的に増加しているのは紛れもない事実です。その背景には様々な社会的問題もあり、増加の原因を一言で説明することはできません。新型うつ病をうつ病の疾患単位に含めるのか、適応障害の範疇と考えるのか、それとも疾患とは見なさないのか、意見はそれぞれ分かれるところだと思いますが、患者様個々の状況や症状に応じて適切な対応を考えていく必要があります。今後精神科には、ストレスケアとしてより専門的な医療やサポートが要求されるようになるかもしれません。

三愛会 トピックス

★三船病院夏祭り

8月3日(土)に三船病院夏祭りを開催しました。ゲストによさこいチーム「極」、和太鼓集団「響屋」の皆様をお招きし、迫力のある踊りと太鼓の演奏が行われました。今年は屋台の数やバザーの種類も増え、賑やかな夏祭りとなりました。毎年恒例の花火もたくさん打ち上がり、夏祭りは大盛況のうちに終えることができました。



★第22回 相談室セミナー

8月22日(木)に第22回の相談室セミナーを開催しました。中讃保健所よりキャラバン隊をお招きして茶話会をひらき、退院後の生活の様子や楽しみについて、地域で暮らす当事者の方からお話を伺いました。なごやかな雰囲気の中、様々な話をしてくださり、入院中の患者様に地域の風を運んでくださいました。



三船病院 委員会活動紹介

「 栄養管理委員会 」

副委員長 栄養管理課 課長 岡 浩美

栄養管理委員会は、月1回定例会を開催し、毎月の栄養指導件数、病棟単位での残飯調査の結果や管理栄養士による食事・配膳指導の結果、食品衛生に関する事項等の報告を行います。また年2回(4月と10月)実施している嗜好調査の結果も報告しています。毎回調査内容を少しずつ変更し、病棟での聞き取り調査を行います。できる限り患者様の食事に対する要望を取り入れ、入院期間中の食生活が豊かなものとなるようスタッフ一同で取り組んでいます。

患者様の高齢化に伴い、嚥下状態が悪くなる方が増えてきました。こうした状況に対応するため、嚥下訓練食に対する勉強を開始しています。また、退院後の食生活を支援し、生活習慣病の改善を図るため、外来での栄養指導を増やしていく事も課題としています。

今後も多職種の協力を得ながら、安全でおいしい食事を提供し、適切な栄養管理ができるよう、活動を続けていきます。



《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第1水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



【介護老人保健施設 福寿荘】

「通所事業特有である送迎について」

介護福祉士 主任 五百森 浩司

現在、福寿荘デイケアでは月曜日から金曜日の朝8時から9時の間と、夕方4時から5時の間に送迎を行っています。送迎車は3台あり、リフト付きワンボックスカー2台(9人乗り1台、5人乗り1台)と軽自動車1台(シートアレンジにより車椅子1台乗車)があります。利用者の方の身体状態や自宅付近の送迎事情により、走行ルートを車ごとに分けて送迎しています。

送迎地域は旧丸亀市で、福寿荘を中心に東は土器町、西は原田町、南は郡家町、北は塩屋町方向に行っています。通勤時間帯や雨天時など、交通事情により迎えに行く時間がかかる事もありますが、安全優先で送迎をするようにしています。

お迎えは利用者の方の自宅まで行きますが、玄関先まで出てくるのが困難な方はベッドサイドまで行き、介助にて乗車していただいています。乗車していただくまでの短い時間でご家族に健康状態やご家庭での様子を伺い、送る際もデイケアであったことをできる限り詳しくお伝えしてご家族の方に安心と信頼をしていただけるように心掛けています。

これからも利用者の方、ご家族が安心してデイケアを利用していただけるよう安全運転に努めたいと思います。

【三愛会コミュニティケアセンター】

「地域活動支援センターはなぞの紹介」

地域活動支援センターはなぞの 精神保健福祉士 高尾 彩

地域活動支援センターはなぞのは、地域で暮らす精神障害のある方へ、活動の場や憩いの場を提供したり、生活の中で困っていることの相談をお受けしたりしています。現在、県内外合わせて152名の方が「メンバー」として利用登録されています。祝日以外の午前7時～午後6時まで開所しており、毎日通ってこられる方、活動に参加される方、職員と定期的に面接相談される方、受診や作業所の帰りに立ち寄ってくださる方、お電話でご相談をくださる方など、利用の仕方は皆様それぞれに異なります。

また、近隣住民の方をはじめ、地域とはなぞの、ひいてはメンバーの皆様がつながることができるような取り組みも行っています。毎月2回、地域のコミュニティセンターで実施されているパソコン教室では、はなぞも運営に協力しており、メンバーの皆様も他の市民の方と交わりながら一緒に学習されています。昨年度に実施した地域交流会では、ご近所からも多くの来場者があり、会場が一体となるすばらしい催しとなりました。

はなぞでは精神保健福祉士、指導員など計3名の職員がいます。メンバーの皆様が毎日の生活の中で感じている様々な思いを、一緒に整理し、実現していくパートナーとなることが目標です。そのため、この度皆様が毎日の暮らしの中でどのようなことを感じ、どのような生活を送りたいと考えていらっしゃるのかをお伺いするため、アンケート調査を実施しました。アンケートの結果は現在集計中ですが、メンバーの皆様にとって、よりどころとなれる「居場所」を提供できるよう努めていきたいと思っています。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院クリスマス会

今年も12月に開催予定です。

場所：三船会館

内容：バザー、ゲーム等



《編集後記》

三船病院は今年で60周年を迎えました。これも日頃の皆様のご理解とご協力の賜であると感じております。ありがとうございます。1面でもふれましたように、三愛会では新事業の展開にむけて現在準備をしているところですが、法人内でこれまで大切にしてきた理念や思いを忘れることなく、業務に取り組んでいきたいと思っております。今後の進捗状況につきましては三愛 view で随時ご報告したいと思います。(三船病院相談室PSW)